

F★★★★
ホルムアルデヒド放散等級

水性を超えた水性。超水性塗料、誕生！

JIS A 6909 可とう形改修塗材E 適応上塗材（耐候形2種）

一液高耐候性形水性反応硬化ウレタン樹脂塗料

アレスアクアレタン

アレスアクアレタン

超水性塗料の5大メリット

1

水性ウレタンです。

- 非危険物なので、消防法の対象に含まれません。
- イソシアネート硬化剤の毒性がありません。
- 有機溶剤中毒予防規則の対象になりません。
- 労働安全衛生法の対象になりません。
- ほとんどの既存塗膜の塗替が可能です。
- 希釈シンナーは不要です。

2

一液ウレタンです。

- 可使時間がありません。
- 硬化剤が不要です。

3

低臭ウレタンです。

- 住居中の人や近隣の人の快適な生活を維持します。
- 病院、飲食店、サービス業、食品工場、公共施設の稼働中の塗装も可能です。

4

信頼性の高い
ウレタンです。

- 密着力が優れています。
- 耐候性に優れています。
- 速乾性に優れています。
- 硬質塗膜と弾性塗膜の機能を持っています。

5

防カビ、防藻力の
高いウレタンです。

- 建物の美観と清潔さを保ちます。

塗膜性能

試験項目		試験条件	アレスアクアレタン	溶剤系2液形 ポリウレタン樹脂塗料
初期性能	光 沢	60° 鏡面光沢度	85	89
	鉛筆硬度	23℃×65%RH7日間乾燥後	F	F
	付 着 性	1mm巾 10×10 ゴバン目	100/100	100/100
	耐衝撃性	Φ1/2インチ×300g×50cm	異常なし	異常なし
	伸び率(%)	フリー塗膜	180	20
耐薬品性	耐アルカリ性	20℃・5%苛性ソーダ液・10日浸漬	異常なし	異常なし
	耐酸性	20℃・5%硫酸水溶液・10日浸漬	異常なし	異常なし
耐久性能	耐水性	23℃ 7日間浸漬	異常なし	異常なし
	促進耐候性	キセノンランプ法 1200時間光沢保持率	100%	100%
	温冷繰り返し サイクル試験	ホールド工法システム 23℃上水浸漬 18時間→-20℃の気中 3時間→50℃ 3時間 10サイクル	異常なし	異常なし

アレスアクアレタン塗装仕様

新設時の仕様

A. コンクリート・モルタル素地

アレスホールド工法Ⅰ

完全水系外装仕上げ

工 程	塗料・処置	標準所要量 (kg/m ² / 回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)	
1	素地調整	エフロ・レイトランス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去し、乾燥した 清浄な面とする。※				
2	下塗り	EP シーラー白 上水	0.09～0.12	2 時間以上 7 日以内	ローラー	0～50
3	中塗り	アレスホルダー HG 上水	0.3～1.5	8 時間以上 7 日以内	ローラー エアレス	1～10 7～15
4	上塗り (1 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13～0.16	2 時間以上 7 日以内	ローラー エアレス	3～10 3～10
5	上塗り (2 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13～0.16	－	ローラー エアレス	3～10 3～10

※素地のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10%以下（ケット科学社製 CH-2）、または 5%以下（ケット
科学社製 HI-500 シリーズ：コンクリートレンジ）の条件で塗装してください。

B. プラスチック類（硬質塩ビ・FRP）

アレスアクアレタン仕上げ

その他のプラスチックに塗装する場合は
事前に試験塗装を行い付着性を確認してください。

工 程	塗料・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)	
1	素地調整	シンナー拭きなどにより、被塗面に付着した油脂類その他の異物を完全に除去する。 サンドペーパー等を用いて目荒らし処置等を行う。				
2	上塗り (1 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13	2 時間以上 7 日以内	ハ ケ	3~10
					エアレス	3~10
3	上塗り (2 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13	－	ハ ケ	3~10
					エアレス	3~10

C. 鉄部

アクアマックス EX Ⅱ～ アレスアクアレタン仕上げ 完全水系鉄部仕上げ

※鉄骨階段・床および踏み面への適用は避けてください。

工 程	塗料・処置	標準所要量 (kg/m ² / 回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)	
1	素地調整	あらかじめ工場でさび止め塗装された面の劣化した塗膜、浮き錆は入念にケレンし除去する。 油脂、汚れなどは、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去し、清浄な面とする。				
2	補修塗り	アクアマックス EX Ⅱ 上水	0.14	4 時間以上 7 日以内	ハケ ローラー	0～5
3	下塗り	アクアマックス EX Ⅱ 上水	0.14	4 時間以上 7 日以内	ハケ ローラー	0～5
4	上塗り (1 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13	2 時間以上 7 日以内	ハケ ローラー	3～10
5	上塗り (2 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13	－	ハケ ローラー	3～10

塗替時の仕様

コンクリート・モルタル素地

アレスホールド工法Ⅰ

(JIS A 6909 可とう形改修塗材 E 適合仕様)

躯体保護を目的とした仕様です。

[適用できる旧塗膜の種類] 各種エマルジョン、リシン、スタッコ、吹付けタイル、弾性塗膜など

工 程	塗料・処置	標準所要量 (kg/m ² / 回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)	
1	素地調整	モルタルの浮き・クラック等は適切な処置を行う。 劣化塗膜やチョーキング・汚れ等を高圧水洗にて除去し乾燥した清浄な面とする。				
2	中塗り	アレスホルダー HG 上水	0.3~1.5	8 時間以上 7 日以内	ローラー エアレス	1~10 7~15
3	上塗り (1 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13~0.16	2 時間以上 7 日以内	ローラー エアレス	3~10 3~10
4	上塗り (2 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13~0.16	—	ローラー エアレス	3~10 5~10

アレスアクアレタン仕上げ

色替え、化粧仕上げを目的とした仕様です。

工 程	塗料・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)
1	素地調整 チョーキング・ゴミ・汚れ等を除去し、脆弱な旧塗膜は除去する。 外部の場合は高圧水洗を行い、乾燥した清浄な面とする。				
2	上塗り (1 回目) 上水	0.13	2 時間以上 7 日以内	ローラー	3~10
		0.16		エアレス	3~10
3	上塗り (2 回目) 上水	0.13	—	ローラー	3~10
		0.16		エアレス	3~10

※所要量は、被塗物の形状や素材・塗装方法等によって、増減することがあります。

※塗り替えて下地が脆弱な場合、吸い込みが大きい場合、下地補修部にはシーラーを塗装してください。

鉄部

アクアマックス EX Ⅱ～ アレスアクアレタン仕上げ 完全水系鉄部仕上げ

※鉄骨階段・床および踏み面への適用は避けてください。

工 程		塗料・処置	標準所要量 (kg/m ² / 回)	塗装間隔 (23℃)	塗装方法	希釈率 (%)
1	素地調整	電動工具、手工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、浮き錆は入念にケレンし除去する。 油脂、汚れなどは、ワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去し、清浄な面とする。				
2	補修塗り	アクアマックス EX Ⅱ 上水	0.14	4 時間以上 7 日以内	ハケ ローラー	0～5
3	下塗り	アクアマックス EX Ⅱ 上水	0.14	4 時間以上 7 日以内	ハケ ローラー	0～5
4	上塗り (1 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13	2 時間以上 7 日以内	ハケ ローラー	3～10
5	上塗り (2 回目)	アレスアクアレタン 上水	0.13	－	ハケ ローラー	3～10

荷姿 容量：4kg・15kg

施工上の注意事項

- 1) 気温5℃以下、湿度80%以上、また強風、降雨、降雪が予想される場合は塗装を中止してください。
- 2) 塗り替えの場合、旧塗膜の劣化が著しいときは、サンダー・ワイヤーブラシ等で脆弱な塗膜を除去し高圧水洗を行ったのち、1日乾燥後、塗装してください。
- 3) 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濃色系塗料は長く放置されると容器内で分離(顔料沈降)することがありますので、十分攪拌の上、ご使用ください。
- 4) 押出成型板、GRC板などの緻密な素材には、溶剤系エポキシシーラー(マルチタイルコンクリートプライマーEPO、浸透系Mシーラー)をご使用ください。
- 5) 軽量モルタル、ALCパネル、高断熱型窯業サイディングおよび発泡ウレタンなどを使用した壁断熱工法などの「高断熱型外壁」を塗り替える際、旧塗膜が溶剤系アクリルトップである場合は蓄熱や水の影響、塗装後の環境などいくつかの条件が重なることで、塗膜のふくれが生じることがあります。旧塗膜をラッカーシンナー拭きして簡単に塗膜が再溶解する場合は、下塗りに「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」を塗装してください。
- 6) ハケ塗りで補修塗りを行う際、ローラー塗りとの仕上がり肌や希釈率の違いによる色相差が生じることがありますのでご注意ください。

- 7) 合成皮革、ゴムパッキン、塩化ビニル製品などと塗膜の接触は避けてください。可塑剤のブリードによる粘着が起こる場合があります。
- 8) 「シーリング面への塗装は極力避けてください。汚染や粘着、フシの原因となります。やむをえず塗装する場合には、ノンブリードタイプのシーリング材を用いることとし、「シーブラ」または「マルチタイルコンクリートプライマーEPO」をバインダーとして挟むことで不具合を軽減することができます。
- 9) 汚れ、傷などにより補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは必ずとっておき、同一塗料、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装をしてください。
- 10) 塗装用具などの洗浄の際、上水で落ちにくい場合はラッカーシンナーを用いてください。
- 11) 濃彩色の塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類履具類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。

ご使用上の注意事項

予 防 策

- 取り扱い作業中乾燥中とともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。
- 吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
- 皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。
- 本来の目的以外に使用しないこと。
- 指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。
- 缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
- 使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
- 本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

対 応

- 目に入った場合:直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合:直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。
- 吸入した場合:空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
- 漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。
- 火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

保 管

- 指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
- 直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
- 子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

廃 棄

- 本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

施工後の安全

- 本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでベンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

関西ペイント販売株式会社 関西ペイントホームページ www.kansai.co.jp

北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東信越 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223

東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603

中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339

※本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(23年08月12刷PPO)カタログNo.248